

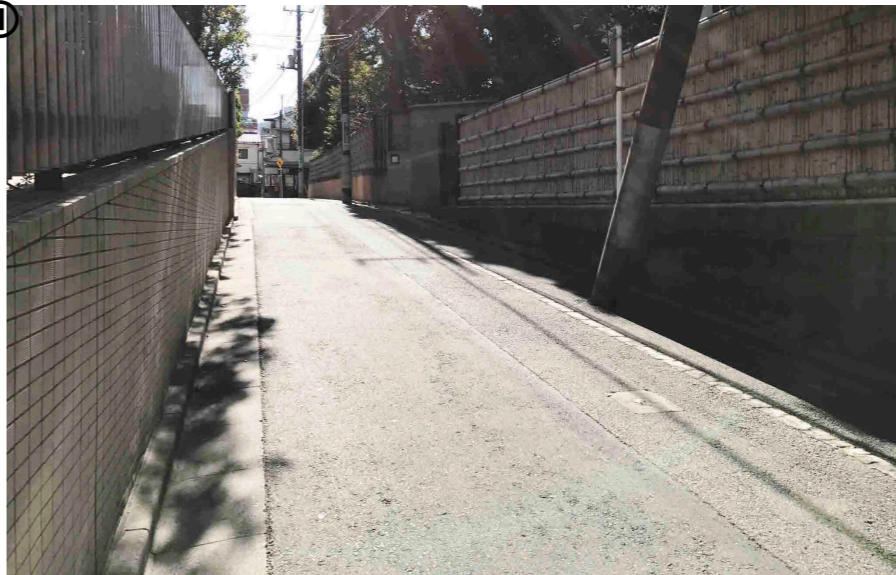
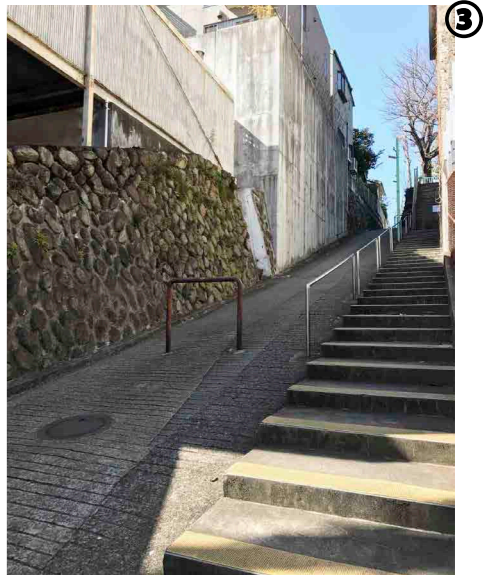


いつもと違う視点で眺めてみる！

中野坂道奇譚



十貫坂の由来
付近から十貫文の入った壺がでてきたという説と、中野長者が坂の上から見渡す限りの土地を十貫文で買ったためと記録にあります



①：犬坂 宝仙学園の緑に包まれる ②：鳥見坂 桃花小学校の隣にある。この辺りは緩やかで短い坂がいたる所にある
③：東中野5丁目の名称がない坂 ④：十貫坂 鍋屋横丁の交差点から坂への入口にて (2017年2月撮影)

東京は坂道都市

東京は日本で一番坂の多い都市といわれ、名称のついた坂だけでもその数は千以上もあるとされている。名称が付与された歴史は古く、江戸時代にまで遡る。富士見坂や松見坂などの「坂からの展望」、七曲坂やなべこぼ坂などの「坂の地形」、幽霊坂や暗闇坂などの「坂の明暗」、地藏坂やつりぼり坂などの「坂付近の建造物」など、様々な事柄に由来する。どれも坂道を見つめ、周囲の街並を眺め、非常にユーモアに富んだ発想のものが多く、反対に坂の名称から実際の坂がどのような坂なのか想像してみてもおもしろい。

中野にも坂はたくさんある。本町二丁目に犬坂(画像①)という坂がある。1685(貞享2)年に徳川綱吉が生類憐みの令を發布したとき、中野に犬御用屋敷が設けられたことに由来して名付けられた。今から300年以上も前のこの坂では、犬たちが走り回っていたのかもしれない。

鳥見坂(画像②)は中央五丁目にある。かつて桃園川にかかっていた鳥見橋に向かう道は「お鳥見通り」と呼ばれていたことに由来するとされている。

名称のついていない坂も数多く存在する。その中でも特筆して急勾配の細長い坂(画像③)が東中野五丁目にあり、名称がつけられていないのが不思議なくらい個性ある坂だろう。

長者坂にまつわる言い伝え

中野区本町五丁目から杉並区和田本町にかけて、緩やかに十貫坂(画像④)が続く。坂上は鍋屋横丁、十貫坂交差点にあたる。車の行き交う喧騒から離れ、閑静な住宅街が並ぶ。坂上にある柱には、名称の由来が次のように書かれている。

- ・付近から十貫文の入った壺がでてきたためという説
- ・中野長者が坂の上から見渡す限りの土地を十貫文で買ったためという説

前者が真実であれば、単に見つかっていないだけで、他に何か入った壺が

まだ眠っているかもしれない、という夢物語を想像してしまわないだろうか。

では、後者の中野長者とは何者なのか。鈴木九郎といい、馬喰(馬の売買をする人)をしながら中野を開拓し、一代で長者といわれるまでになった人物という記録が残っている。しかし、莫大な富を手に入れたが、大事に育てていた小笹という一人娘が病気で亡くなってしまった。九郎は悲しみに暮れ、

禅師の教えを受け僧侶になった。名を正運と変え、自宅を寺に建替え、立派な三重の塔も建てた。これが今も中野長者の寺として現存する成願寺である。

巨大なビルが建ち並び、整然とした現在のの中野坂上を、もしも九郎が十貫坂から見下ろしたらどのような心境になるだろう。この街は自分が買い占めたと大喜びするのか、はたまた想像を遙かに超える近代都市に腰を抜かしてしまうのだろうか。

⑤十貫坂 坂の中腹から鍋横方面を望む
⑥幽霊坂 東中野には急勾配の坂が多い



中野にも幽霊坂は存在した!?

各地に点在する幽霊坂。いかにもお化けが出てきそうなイメージを想起させる名前だ。その由来には諸説あり、お寺や墓地付近にあり、どこか物寂しい雰囲気を出しているためとする説や、樹木が生い茂り日中でも薄暗いからというだけの説もある。また、幽霊という名称を忌み嫌い、勇励坂や有礼坂という別名をつけられた坂もある。そんな幽霊坂、実は中野にもそう呼ばれる坂がある。正式名称ではなく、いつの頃からか誰が言うでもなく、その語り継がれている坂である。それは東中野五丁目、中野区立第三中学校の前にある坂(画像⑥)のことであり、このことについて『東中野今昔ものがたり』では、次のように記されている。

「現在三中の前の坂道を、我々は子ども頃から「ゆうれい坂」と呼んでいました。(中略)昭和の初め頃までは、本当に寂しい坂道でした。道幅も狭く、両側は木々や篠竹が茂りうっそうとしていて、昼なお暗い坂道だったので、ましてや夜など街灯もない真っ暗な坂道を通った記憶はありません。」

実際に足を運んでみると、現在の坂付近の姿からは、幽霊を連想するには難しいと思えるほど、住宅が軒を連ねきれいに整備された坂道となっている。

◎参考文献

- 『江戸・東京 坂道ものがたり』酒井 茂之／著 明治書院 2010 所蔵：中央
- 『江戸の坂 東京の坂(全)』横関 英一／著 筑摩書房 2010 所蔵：上高田
- 『江戸と東京の坂』山野 勝／著 日本文芸社 2011 所蔵：東中野
- 『東京の「坂」と文学』原 征男／著 彩流社 2014 所蔵：中央(禁)・本町
- 『東中野今昔ものがたり』岸 恒夫／著 東中野地域ニュース編集委員会 2006 所蔵：全館
- 『タモリの TOKYO 坂道美学入門 新訂版』タモリ／著 講談社 2011 所蔵：中央・江古田

◎参考サイト

『まるっと中野』
<http://www.visit.city-tokyo-nakano.jp/category/walking/maniac/11022>

さて、私たちが普段何気なく歩いている道も、先人たちが生きた歴史が刻まれている。それは今回取り上げた坂道だけでなく、日常の風景に溶け込んでいる「何か」にもあることだろう。視界には入っていないものの、慌ただしく日々を過ごしているうちに、「何か」に気付いていないだけかもしれない。たまにはゆっくりと、普段と違う視点を持って中野を歩いてみて、何か気になるものを探してみよう。どうか、もしも、気にかかっているものがあつたとしたら、図書館で調べてみてほしい。あなたの生活がおもしろく、人生がより豊かになるだろう。